

# 生活単元学習指導案（細案）

平成26年11月14日金曜日2校時  
小学部2組 男子3人 女子3人 計6人  
場 所 小学部2組教室  
指導者 ○○○○(CT) ○○○○(ST)

## 1 単元 「でかけよう2」

### 2 単元について

#### (1) 単元設定の理由

##### <児童の実態>

本学級は、3年生3人4年生3人の計6人で構成されている。これまでに、近くの公園に徒歩で出掛けたり、バスや市電といった公共交通機関を利用したり、簡単な買物を経験したりしてきている。休日には、家族と公園や店舗に出掛け、体を動かして遊んだり好きな物を見たり、買物したりするなど、出掛けることを楽しみにしている姿が見られる。しかし、興味をもって出掛ける場所が限られており、様々な公共施設や店舗などを利用する機会が少ない児童が多い。これは、経験したところのある場所への意識が強く、したいこと（目的）よりも行きたい場所を選ぶことが多いため、興味・関心の幅が広がっていないからではないかと考える。また、経験のある場所では、マナーを守ることができるが、経験が少ない、あるいは、初めて行く場所ではマナーを守ることが難しい姿が見られる。これは、出掛けた経験からマナーに対する気付きはあるものの、それぞれの経験を結び付けて考え、行動に移すことが難しいからだと考えられる。

##### <単元の意義・価値>

このような実態を踏まえて、本単元「でかけよう2」を設定した。本単元は、実際に出掛けるための目的から行き先を選択・決定したり、出掛ける際の行き方等の具体的な方法や行き先でのマナー（望ましい行動）、ルール（利用の仕方等）を学習したり、出掛けた後に振り返りを行うことで達成感を味わったり、新たな課題を見付け出ししたりといったことを、出掛けるという経験を通して学ぶことのできる単元である。このような一連の学習を複数回設定することによって、友達と一緒に出掛ける楽しさを味わいながら、これまで経験の少ない施設に行くことで興味・関心の幅を広げたり、どの施設でも共通するマナーを学習したり、個々の施設で必要なルールを学んだりすることができる。と考える。

##### <ねらい>

そこで、本単元では、友達や教師と一緒に活動する楽しさを味わいながら、目的に応じた行き先を選択・決定したり、実際に出掛け、振り返ったりする学習活動を繰り返し行うことを通して、出掛ける目的と行き先への興味・関心を広げたり、その際に必要となるマナーとルールを経験的に学んだりすることができるようにしたい。

##### <指導観>

具体的には、一次で、これまでの校外学習の動画や写真を見ることで行ったことがある場所や学習について想起したり、学習計画について確認したりすることができるようにする。出掛ける場所については、買う、見る、遊ぶなどの目的を考え、それに応じた行き先を選択できるようにする。その際、経験の少ない、またはない場所を紹介ビデオ等で提示して選択肢に加えることで、興味・関心を広げながら、目的意識をもって学習に取り組むことができるようにする。また、マナーやルールに関しては、頑張ることとして目標を立てることで、出掛けたり、活動を振り返ったりする際も意識できるようにする。二次では、出掛ける目的や頑張ることを意識しながら、実際に出掛ける活動を設定する。一次で学習したマナー等については、マナーカード等として校外学習の際に活用できるようにする。振り返りでは、動画等で目標に対する評価を行い、できたことや課題に自分自身で気付いたり、友達同士で確認し合ったりできるようにする。全3回の出掛ける活動の中で、計画から実施、振り返りの活動を繰り返し実施することで、目的に応じて、多くの施設利用を経験し、ルールについては知識を増やしつつ、共通するマナーについては、意識を高めることができるようにする。安全面については、「でかけよう1」で設定していた約束等を継続して扱うことで、意識を高めるようにしたい。三次では、動画や写真で活動を振り返ったり、楽しかったこと、頑張ったこと、できるようになったことなどを発表する学習を行い、達成感や満足感を味わったりすることができるようにしたい。

##### <展望>

このような学習を通して、様々な施設への興味・関心の幅が広がり、決まった場所のみでなく、目的に応じた複数の選択肢をもつことができたり、行きたい場所が増えたりすると考える。また、マナーやルールを理解して学校や家庭生活における実際の場面で実践することで、家庭での充実した余暇の過ごし方につながっていくと考える。

## (2) 実態

観点 児童	出掛けることへの 興味・関心	マナーやルールの理解	公共交通機関の 利用	公共施設の利用
S. T (3年, 男)	週末は家族とよく出掛けている。目的が限られているため、行った先での活動が決まった内容になってしまふことが多いが、行きたい場所を自分で伝え、行くことを楽しみにしている。	約束を理解すると、それを守って行動しようとする事ができる。活動の内容や約束などについて確認を求めたり、失敗することに苦手意識があったりするが、教師とのやり取りで納得して活動することができる。	バス利用の仕方を理解しており、ICカードを用いて乗降ができる。バスの表示を見て「〇番線。」と伝えたり、マナーも概ね守って利用したりすることができる。	コンビニエンスストアを保護者とよく利用しており、決まった品物を一人で買うことができる。ショッピングセンター等にも出掛けるが、出掛けた先での目的は気に入った場所を見ることに限られている。
K. N (3年, 女)	家族でドライブに行ったり、公園に出掛けたりすることを好む。人が多いと行動が滞ることがある。	気持ちが高まると大きな声を出すことがあるが、教師と一緒にカード等で確認することでマナーやルールを守って利用することができる。	バス等の利用経験は少ないが、ICカードの使い方を理解し、バスに乗降することができる。	飲食店は初めての場所でも家族と食事を楽しむことができる。家族との買物で好きなお菓子を選ぶ等経験している。
Y. R (3年, 女)	休日は公園に出掛け、体を動かすことが多い。自分なりの表現で行きたい場所について伝えようとする事ができる。	気持ちが高まると、大きな声を出したり、走ったりすることがあるが、マナーやルールについて、事前に確認することで守って行動しようとする事ができる。	保護者とのバス利用経験が多い。バスに乗ることを楽しみにしており、ICカードの使い方についても理解して利用することができる。	新しい場所に苦手意識がある。買物や公園など、家族で楽しむことができる。
H. H (4年, 男)	行きたい場所を自分から伝えたり、行き先をイメージして楽しみにしたりすることができる。	目的やルールを事前に動画や写真などで伝えることで、それに従って行動することができる。自分のしたいことに対する気持ちが強くなると、自分なりの考えで行動しようとする事ができるが、絵カード等で確認することで、行動を修正することができる。	バス等の利用経験は少ないが、利用の仕方やマナーについて理解しており、乗降の際にICカードをかざしたり、バス停や車内で静かにしたりすることができる。	水族館、動物園、メルヘン館などの決まったコーナーは楽しむことができる。科学館や県民交流センターなどの学習館は興味・関心が高まらなかったり、じっと座っていることに飽きてしまったりすることが多い。
F. Y (4年, 男)	自分から行きたい場所を積極的に伝えることは少ないが、好きな場所がいくつかあり、家族と出掛ける際に自分から伝えることができる。	施設での排せつや買物の際の店舗の利用などに課題が見られるが、マナーカード等のツールを活用することでマナーやルールを守ろうとすることができる。 興味・関心の高いものがあると、その場を離れようとする事ができる。	公共交通機関の利用経験は少ないが、ICカードの使い方など大まかな流れは理解して行うことができる。	食べるのが好きで、飲食店やコンビニエンスストアで好きなものを食べたり、買ったりする経験をしている。水族館や店舗では、好きな場所にいることが多い。
K. M (4年, 女)	行ったことのある場所への意識が強く、他の場所への興味・関心が広がりにくい。以前行った場所をよく覚えていて、行きたい場所を言葉で伝えることができる。	経験のある場所では、ルールを理解して楽しむことができる。場所への意識が強く、自分の思っていた目的と違うと、大きな声を出したり、その場を離れようとしたりする事ができるが、スケジュールや活動内容を伝えることで落ち着いて行動できる。バス停での待ち時間などにおいて、目的が分かりにくいと落ち着かない様子が見られる。	バスを定期的に利用している。ICカードの使い方や乗り降りの流れを理解している。バスの車内では静かに過ごすことができる。	飲食店は待ち時間が少なく、本人が利用の仕方に慣れてくるとスムーズに利用することができる。ショッピングセンター、学習館などは、本人の好きなコーナーがあると楽しめるが、苦手な店舗もある。

### 3 単元目標

#### (1) 全体目標

- ア 出掛ける目的から行き先を考え、友達と一緒に出掛ける楽しさを味わいながら出掛けることで、様々な施設への興味・関心を広げることができる。
- イ 繰り返し出掛ける活動を行うことで、公共の場でのマナーやそれぞれの施設や公共交通機関で必要なルールを守って活動することができる。

育てたい力	評価規準	観点
自分づくり	① 目的があって出掛けることや目的によって行き先が異なることを理解している。 ② 出掛ける目的を理解している。	【知識・理解】 【技能】
関係づくり	③ 友達や教師と話し合うことで一緒に出掛ける意識を高めながら、出掛ける目的について考えたり、目的に応じた行き先を考えたりしようとしている ④ マナーやルールを意識しながら活動しようとしている。	【関心・意欲・態度】  【思考・判断・表現】
生活づくり	⑤ 場面や状況に応じてマナーやルールを確認し、適切な行動をとろうとしている。 ⑥ 目標や目的と比べながら自分や友達の活動を振り返り、相手に伝わりやすいように思いや考えを伝えている。	【思考・判断・表現】  【思考・判断・表現】

#### (2) 個人目標

児童	個別の指導計画の目標	個人目標
S. T (3年, 男)	外出や調理等の活動において、きまりや手順を理解したり、実際に経験したりすることを通して、一人のできることを増やすことができる。	ア 目的に応じた行き先を考えたり、友達と一緒に出掛けることを楽しんだりすることで、様々な公共施設を知り、興味・関心をもつことができる。 イ マナーやそれぞれの施設のルールについて理解し、マナーやルールを守って様々な施設を利用することができる。
K. N (3年, 女)	事前学習等で内容に対する見通しをもったり、手順表の確認や友達の様子などを手掛かりにしたりしながら、調理や公共施設、店舗の利用などを行うことができる。	ア 行きたいところやしたいことを選択し、楽しみなことをイメージしながら活動することができる。 イ 公共施設のマナーやルールを理解し、学習で使用したマナーカードや手順表を手掛かりにしながらか利用することができる。
Y. R (3年, 女)	自他の役割を理解したり、ルールを適切に守ったりしながら活動することができる。	ア 目的を理解し、楽しみなことやしたいことを自分で選択して伝えたり、友達と出掛けることを支えにしたりしながら新しい場所に出掛けることができる。 イ マナーを意識したり、施設に応じたルールを守ったりしながら、公共施設や店舗を利用することができる。
H. H (4年, 男)	友達と協力しながら調理や制作をしたり、きまりや順番を守って公共施設や店舗を利用したりすることができる。	ア 友達と出掛けることや目的を楽しみにすることで、経験の少ない場所への興味・関心を高めることができる。 イ 公共施設や店舗のマナーやルールを理解し、友達に紹介したり説明したりしながら、マナーやルールを守って利用することができる。
F. Y (4年, 男)	順番やきまりを守りながら友達と一緒に遊んだり、利用の仕方やマナーを守りながら公共施設や公共機関、店舗を利用したりすることができる。	ア 自分のしたいことを楽しみにしながら出掛けることで、目的や行き先の施設のイメージをもち、新しい公共施設に興味・関心を広げることができる イ マナーやルールを理解し、学習で使用した動画やマナーカードを用いて確認することで、マナーやルールを守って施設を利用することができる。
K. M (4年, 女)	スケジュールや手順表を手掛かりにして、活動に対する見通しをもち、友達と一緒に調理や制作、買物などを行うことができる。	ア したいことや行きたい場所を選択し、見通しと期待をもって、友達と一緒に出掛ける活動を楽しむことができる。 イ 公共施設のマナーやルールを理解し、利用する際に学習で使用したマナーカードや手順表を確認することで、マナーやルールを意識して利用することができる。

4 指導計画（総時数24時間）

次	時数	主な学習活動・内容 【評価規準との関連】	同時期に実施する 各教科等との関連
一	4 本時 (2/4)	1 学習について確認する。 【評価規準①②③】 (1) これまでの学習の動画を見る。 (2) 学習計画を話し合う。 (3) 経験のある施設等の目的について話し合う。 (4) 目的を決める。 (5) 目的から行き先を選択・決定する。 (6) マナーとルールについて確認する。 (7) 交通手段や道路歩行について確認する。 (8) 必要な持ち物を考えたり、確認したりする。	○ カレンダーや日程を理解する。 → 日常生活の指導「朝の会」  ○ 乗り物や買物などへの興味・関心を高める。 → 国語「えほんをよもう」
二	19	2 実際に掛ける。 【評価規準①②④⑤】 (1) 目的と行き先について確認する。 (2) 公共交通機関の利用，道路の安全な歩行や横断歩道の渡り方を体験する。 (3) 行き先でのマナーとルールを実践する。 3 振り返りをする。 【評価規準⑥】 (1) 校外学習の動画や写真を見る。 (2) 楽しかったことや頑張ったことを発表する。 (3) 課題を見付ける。 (4) 頑張りたいことを決める。 4 第2回と第3回の目的と行き先を決める。 【評価規準①②③】 (1) 目的を決める。 (2) 目的から行き先を選択・決定する。 (3) 行き先の施設のマナーとルールについて確認する。 (4) 頑張りたいことを確認する。 (5) 持ち物について確認する。 5 実際に掛ける。 【評価規準①②④⑤】 (1) 目的と行き先について確認する。 (2) 公共交通機関の利用，道路の安全な歩行や横断歩道の渡り方を体験する。 (3) 行き先でのマナーとルールを実践する。 (4) 外食をする。 ※ 第2回と第3回については，それぞれ前回の出掛けようを振り返り，課題等を受けて設定し，学習を進めていくようにする。	○ 絵を見て意味や用途を理解する。 → 国語「えほんをよもう」 ○ シンボルや写真などを用いて振り返りをする。 → 日常生活の指導「帰りの会」
三	1	6 学習を振り返る。 【評価規準②③⑥】 (1) 校外学習の動画や写真を見る。 (2) 楽しかったことを発表する。 (3) 頑張ったことを振り返り，評価する。 (4) アルバムを作る。	
単元（題材）相互の指導内容及び学習活動のつながり			
<p>【前の単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「でかけよう1」で，実際の公共交通機関を利用したり，道路歩行や横断歩道を利用したりする。</li> <li>・ 「でかけよう1」で，店舗で買いたい物を一つだけ選択したり，お金を支払ったりする。</li> <li>・ 「なかまのいえにとまろう」で，品物に対応した店舗での買物を行う。</li> <li>・ 「なかまのいえにとまろう」で，作るものに対して必要な材料を考えたり，選んだりする。</li> <li>・ 「かいものをしよう」で，目的をもって買物に行く。</li> <li>・ 「でいきゃんぷをしよう」で，入浴等のマナーを守って活動する。</li> </ul>			

## 5 本時の学習（2/24）

### (1) 全体目標

出掛ける目的について整理したり、行き先の写真や動画を見たりすることを通して、目的を理解したり、行き先への期待感を高めたりすることができる。

### (2) 個人目標

児童	個人目標	評価規準との関連
S. T (3年, 男)	したいことを自分で考えたり, それに応じた行き先を選択肢の中から選んだりすることで, したいこと(目的)を楽しみにして, 経験の少ない場所にも興味・関心をもつことができる。	①②③
K. N (3年, 女)	したいこと(目的)や行きたい場所を考えながら, 絵カードや写真カードを選択し, 出掛けることへの期待感をもちることができる。	①③
Y. R (3年, 女)	経験した場所での活動を手掛かりに, 何をするために行くかというイメージをもつことで, 目的意識を高めながら経験の少ない場所に対する期待感を高めることができる。	①②③
H. H (4年, 男)	経験した場所での経験を想起することを通して, したいこと(目的)をイメージしながら, それに対するへの期待感を高めたりすることができる。	①②③
F. Y (4年, 男)	これまで経験した場所についての写真等から「何をしたか。」ということ意識したり, 動画や写真などの視聴を通して, 行き先のイメージをもち, 活動内容から楽しみなことを見付けたりすることができる。	①③
K. M (4年, 女)	写真等から経験を思い出し, 楽しかったことを伝えることで「何をしたか。」ということ意識したり, 動画や写真を手掛かりに, したいことや楽しみなことを選ぶことで行き先に対する期待感を高めたりすることができる。	①③

### (3) 指導及び支援に当たって

#### 学習活動の概要と授業環境の工夫

本学級の児童は、これまでに下学年での校外学習の経験を通して、いろいろな公共施設が存在し、マナーを守って利用すること、様々な楽しみ方があること、それぞれの利用の仕方などルールがあることなどを体験してきている。また、交通機関での外出やICカードの利用、外食の経験も少しずつ重ねている。前時では、このような校外学習の様子を動画や写真などで振り返ることで、経験したことについて想起したり、学習計画を立てたりする活動を通して、出掛ける活動を行うことへの期待感を高めている。

そこで、本時は、前時の活動を思い出しながら学習が進められるように、同じ写真や目的カードを提示し、学習をつなげていく。写真を提示することで、出掛けたときの様子や楽しかったことなどを想起したり、出掛けることのイメージをもったり、期待感を高めたりできるようにする。これまでに経験した場所を「買う」、「見る」、「遊ぶ」等の目的という視点から分類することで、新しく出掛ける場所についてもそこで何をしたいかという視点から捉えることができるようにする【自分づくり】。また、自分たちで選択・決定したり、友達と出掛けることを意識的に伝えたりすることで、「行ってみたい。」「やってみたい。」「友達と一緒にいきたい。」という気持ちを高めることができるようにする【関係づくり】。児童によっては、児童自身がその施設にもつイメージや選択の理由などについても尋ねるようにする。

#### 教材・教具とのかかわりについて

導入では、生単カレンダーや学習計画表を使って、前時までの学習と本時の学習について確認することで、学習への見通しをもち、期待感を高めることができるようにする。また、これまでの校外学習の写真等を用いて振り返りを行うことで、前時の学習を想起したり、出掛けることへの意識を高めたりすることができるようにする。

展開では、これまでに経験した施設等について写真カードを用いて、目的に着目して分類する

ことで、「〇〇に行きたい。」という視点ではなく、「〇〇をしたい。」という視点から考えることができるようにする。目的や行き先について考える際の手掛かりとなるように目的カードを活用することで、したいことのイメージをもったり、児童が日頃から身近に経験している「買う」、「見る」、「遊ぶ」という三つを準備して扱うことで、主体的に児童自身が考えたり、選んだりできるようにする。目的カードは、これまでに行ったことがない新しい場所について目的を理解する際にも使用し、自分がしたいことを表現する際の選択肢としても活用できるようにする。児童が目的や行き先を考え、選択する場面では、それぞれの施設の紹介ビデオや写真カードを見て見通しやイメージをもったり、ボードを準備することで個人、またはペアで考え、自分自身の考えを表出したりすることができるようにする。児童が気持ちを表現する際は、「楽しい。」「頑張る。」などの気持ちを表す絵カードを準備することで、意思表示や意思伝達がしやすいようにする。

終末では、自ら選択した目的について、目的カードや写真カードを用いて確認することで、したいことを意識し、出掛けることへの期待感を高めることができるようにする。

#### **人（友達や教師）とのかかわりについて**

ア 友達の様子にも意識を向けられるように、教師が注意を促すように体に触れたり、言葉掛けを行ったりすることで、友達の気付きを共有できるようにする。

イ 発表する児童は前に立つようにして、他の児童が友達の発表に注目しやすいようにすることで、「自分もやってみたい。」「友達と一緒にいきたい。」などの気持ちを高めることができるようにする。

ウ 教師が児童一人一人の思いを一つずつ丁寧に取り上げ、称賛したり、他の児童にも紹介、提示したりすることで、伝える喜びを感じたり、友達への意識を高めたりすることができるようにする。

エ 友達とペアになり、一緒に考える機会を設けることで、友達に対する意識が高まるようにする。Y. RとF. Y, K. MとS. T, K. NとH. Hのペアで活動することで、友達に問い掛けたり、お互いが友達のモデルになったり、そのモデルを見て活動につなげたり、選択を促したり、それに応じて選択したりといった相互の活動の高まりが見られるようにする。

#### **自分とのかかわりについて**

ア したいことや行きたいところを選択し、意識することで、好きな活動に対する期待を高めたり、「また行きたい。」「もっとしたい。」という気持ちにつなげたりすることができるようにする。

イ これまでの経験から目的や楽しかったことなどを想起することを手掛かりに、これまでに行ったことがない場所でも「行ってみたい。」「頑張ってみよう。」という気持ちを高め、興味・関心を広げることができるようにする。

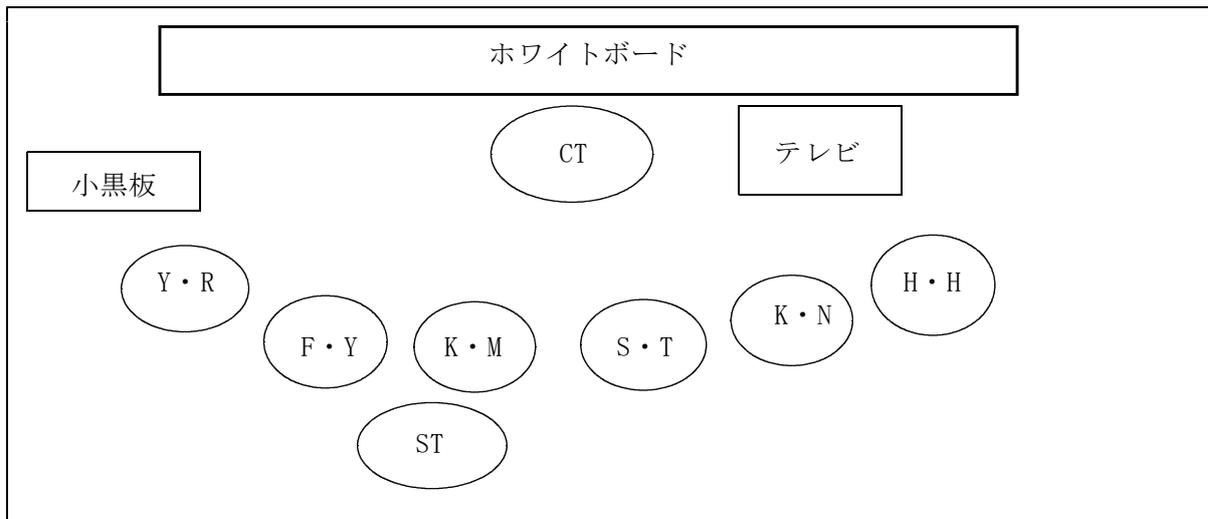
ウ マナーやルールについては、頑張りたいこととして目標を考えることで、自分を振り返ったり、できた自分や次に頑張りたいことなどを意識したり、考えたりするきっかけとなるようにする。

## (4) 実際

過程	主な学習活動	指導及び支援上の留意点	資料・準備
導入 (10分)	1 始めの挨拶をする。  2 前時の学習を振り返る。  3 本時の学習について話し合う。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             どこにこう？ なにをしたい？           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当番の号令に注意を向けられるように言葉掛けや指差しなどを行い、学習の始まりを意識できるようにする。</li> <li>前時で用いた写真や目的カードなどを提示することで、これまでの経験を想起できるようにしたり、本時の内容への興味・関心を高めたりする。</li> <li>STはK. M, F. Yの近くでCTへの注目を促す。</li> <li>生単カレンダーや学習計画表を提示することで、学習内容について意識したり、気付いたりできるようにする。</li> <li>本時の学習のめあてと流れについてホワイトボードに板書し、学習の見通しをもつことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真</li> <li>テレビ</li> <li>パソコン</li> <li>ホワイトボード</li> <li>目的カード</li> <li>生単カレンダー</li> <li>学習計画表</li> </ul>
展開 (25分)	4 目的を決める。 (1) 「買う」、「見る」、「遊ぶ」の目的を確認する。 (2) これまで経験した場所を目的別に整理する。 (3) 何をしたいか話し合い、目的を決める。  5 行き先について話し合う。 (1) 行き先の候補となる場所の目的を確認する。 (2) 動画や写真で行き先の様子を知る。 (3) 行き先を決める。 (4) 気付いたことや楽しみなことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>CTは、「買う」、「見る」、「遊ぶ」の目的を絵カードで提示する際に、身振り等も合わせて行うことで、目的についてのイメージを具体的に伝えることができるようにする。</li> <li>これまで経験したことのある施設や店舗を目的に応じて分類し、目的と行き先をつなげることで目的についての理解を深めることができるようにする。</li> <li>目的を考える際は、友達とペアになることで、一緒に考える機会を設けたり、友達への意識を高めたりする。</li> <li>整理した目的を確認して、児童が自分のしたいことを考えて選ぶようにする。目的と行き先の対応を行う際は、個別にボードを準備することで、自分の意見を表現できるようにする。</li> <li>発表の際は個別のボードをホワイトボードに掲示することで、友達の意見も確認できるようにする。</li> <li>目的に応じた施設を写真カードで提示することで、イメージをもったり、選択したりできるようにする。</li> <li>動画を用いることで、施設の様子がより具体的に伝わるようにする。</li> <li>CTは、児童の表情を見ながら、児童一人一人に視覚情報を近くで提示する等を行うことで興味・関心を高め、他の児童も注目できるようにする。</li> <li>写真カードや気持ちカードなどを準備することで、選択したり手掛かりとしたりして自分の意思や気持ちを表現することができるようにする。</li> <li>発表は、他の児童が注目しやすいように前に行うようにする。</li> <li>STは、他の児童が注目できるように言葉掛けや指差し、身体ガイドなどを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真</li> <li>気持ちカード</li> <li>足形</li> <li>動画</li> <li>個別のボード</li> <li>目的カード</li> <li>テレビ</li> </ul>
終末 (10分)	6 学習の振り返りをする。  7 次時以降の学習計画を確認する。  8 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の発表に対しては、発表してすぐにCTが称賛するようにし、STは、称賛を他の児童にも広げることで、目的や行き先を全員で確認したり、共有したりすることができるようにする。</li> <li>楽しみなこと、分かったことを発表する時間を設け、称賛することで、満足感や校外学習への期待感を高める。</li> <li>学習計画表を確認することで、今後の学習への見通しをもつことができるようにする。</li> <li>当番の号令に注意を向けられるように言葉掛けや指差しなどを行い、学習の終わりを意識できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的カード</li> <li>学習計画表</li> </ul>

(5) 場の設定

小学部 2 組教室



(6) 教材・教具

写真	マナーカード	目的カード
		
<p>施設・店舗などの写真。これまで経験したことがある場所、経験の少ない場所について提示するためのもの。</p>	<p>共通するマナーについて、イラストや文字で表し、学習の中での確認や校外学習の際にマナーの確認の手掛かりとして用いるためのもの。</p>	<p>目的（したいこと）をイラストで提示し、イメージをもちやすいようにするためのもの。</p>
動画	気持ちカード	
		
<p>動画を使用することで、新しい施設の様子をより具体的に分かりやすく伝えることができるようにするためのもの。</p>	<p>気持ちの表出や目標の振り返りなどの場面で、意思や気持ちを伝える際の手掛かりとして用いるためのもの。</p>	

(7) 評価

ア 全体目標に対する評価

出掛ける目的について整理したり，行き先の動画や写真などを見たりすることを通して，目的を理解したり，行き先への期待感を高めたりすることができたか。

イ 個人目標に対する評価

児童	個人目標に対する評価基準	評価	具体的な手立ての評価	評価
S. T (3年, 男)	A 目的を楽しみにすることで，経験の少ない場所に興味をもったり，選択したりするなど，興味・関心を高めることができた。 B 目的について理解し，教師の促しや友達の様子から，経験の少ない場所についても選択したり，興味をもったりすることができた。 C 目的や経験の少ない場所に興味が向かず，興味の幅が広がらなかった。		これまでの経験から目的を考えたり，新しい場所の目的を予想したりすることは，目的について主体的に考えるために有効であったか。 動画や施設の写真カードは，本児の興味・関心を高めるような内容になっていたか。	
K. N (3年, 女)	A 絵カード等の選択を通して，自分のしたいことを考えたり，行き先に興味・関心をもったりする姿が見られた。 B 教師の支援を受けて，絵カード等を使いながら自分の意思を表現することができた。 C 自分の意思や学習したことを表現するのに，教師の支援を多く要した。		絵カード等の内容や選択肢の数は本児が意思を表現するのに適切であったか。 動画や絵カードは，理解しやすいものであったか。	
Y. R (3年, 女)	A 新しい場所について目的を積極的に考えて伝えたり，友達と共有しようとしたりすることで楽しみにする姿が見られた。 B 発声や身振り，絵カード等で自分の思いや考えたことを表現することができた。 C 自分の思いや学習したことを表現する際に教師の支援を多く要した。		これまでの経験から目的を考えたり，新しい場所の目的を予想したりすることは，主体的に考えるために有効であったか。 新しい場所を本児が楽しみにしている目的とつなぐことで，期待感を高めることができたか。	
H. H (4年, 男)	A したいことを自分で考えたり，目的に応じて，経験の少ない場所にも興味を示したりするなど，出掛けることを楽しむことができた。 B 選択肢の中から目的を選び，経験の少ない場所について，目的とつなげて考えることができた。 C したいことや行きたい場所を決めたり，表現したりする際に，教師の支援を多く要した。		「ここでは何をしたかな。」や「楽しかったことは何だろう。」など，目的について思考を促すような言葉掛けや絵カードの提示ができたか。 目的から行き先を考える学習の流れは，新しい場所への興味・関心を高める際に有効であったか。	
F. Y (4年, 男)	A 目的について，経験から考えて選択したり，出掛けることに興味・関心を持ち，楽しみなことを自分で決めたりすることができた。 B 教師の支援を受けて，したいことを伝えたり，行きたい場所を選択したりすることができた。 C 出掛けることへの興味が高まらず，自分の思いを伝える際に教師の支援を多く要した。		これまでの出掛けた場所の写真は，目的について考える際に効果的であったか。 新しい場所に関する動画は，本児の興味・関心を高めるのに有効であったか。	
K. M (4年, 女)	A 目的を自分で決めて，目的を中心に掛けることを楽しみにする様子が見られた。 B 目的を自分で決めて，経験のある場所については，目的と対応して行き先を選んだり，楽しみにしたりすることができた。 C 目的から行き先を選ぶ際には意識がなかなか向かず，自分の楽しみなことや頑張りたいことについて選択する際に教師の支援を多く要した。		三つの目的は本児にとって身近で分かりやすいものであったか。 動画や絵カードは本児にとって，分かりやすく，興味・関心を高める際に有効であったか。	

評価基準 A：十分達成した姿 B：ほぼ達成した姿 C：更なる指導及び支援が必要な姿  
手立て A：十分に有効であった B：有効であったが十分ではない C：あまり有効ではない